

第 1 学年 道徳学習指導案

日 時 平成20年10月17日(金) 5校時

児 童 男11名 女15名 計26名

指導者 高 橋 恵

1 主題名 じぶんのちからで 1－(1) 節度・節制、自立

2 資料名 「しまのおさるたち」(みんなのどうとく1年 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第1学年及び第2学年の道徳の内容1「主として自分自身に関すること」の項目(1)は「健康や安全に気をつけ、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」となっている。基本的な生活習慣を身につけ、節度のある生活ができる児童を育てようとするものである。

基本的な生活習慣をしっかりと身につけることは、児童の人間形成においてきわめて重要なことである。この時期に身につけた生活習慣は、生涯にわたってあらゆる行為の基盤になるといわれる。学校および家庭生活の中で、具体的な指導を通して、児童がわがままをしないで規則正しい生活をするのが大切だということに気づくようにしていくことが大切だと考える。

また、望ましい集団生活を営むためには、その集団に属する一人ひとりが自立の人間でなければならない。しかし、ややもすると自分でやらなければならないこと、自分でできることを大人や友達に依存する傾向が見られる。児童が自立していくためには、自分がやらなければならないことはしっかりできることが大切だと考える。

(2) 児童について

1年生の児童は、学校の生活リズムにもだいぶ慣れて、規則を守って行動できるようになってきている。しかし、個人差が大きく、学習中にうろうろ立ち歩く児童、自分の思い通りにできないと怒り出す児童、好きな学習はするがやりたくない学習はしない児童もいる。そのため、意欲的に取り組んでいる児童の活動が、中断されてしまうことがある。身の回りの整理の仕方も身につけてきている児童がいる反面、まだ落とした物を拾おうとしない児童や消しゴムを小さく切って遊んだりする児童もいる。

また、学習の準備をしたり給食当番等の仕事をしたり、自分でできることもふえてきている。自分の役割を理解して一生懸命やろうとする児童もいるが、自己中心性がかなり残っているため、やりたいことだけやろうとする児童や自分勝手にやろうとする児童もいる。また、遊びを優先させて教師や友達に言われてからいやいやする児童や、できなかったことを友達のせいにしてりする児童もいる。けれども、明るく素直な心をもった児童が多いので、大人や友達に認められることでがんばろうという気持ちも芽生えやすい。

そこで、自分でできることは自分でやることの大切さに気づかせ、自立する態度を育てていきたい。そして、道徳の学習の後は「ふりかえりカード」を使ってお家の方にも励ましてもらいながら、自分から進んでよい生活習慣を身につけようとする態度を育てていきたい。

(3) 資料について

本資料は、だいきちぎるに日頃から何事も頼りがちだった他のさるたちが、だいきちぎるの不在を機に、自分達の無力さに気づき、途方にくれるという話である。困っているさるたちの姿に、日頃の自分たちの生活の様子を重ね合わせて考えることのできる内容である。

だいきちぎるをお家の人、さるたちを自分たちとして日頃の生活を振り返って考えることで、自分のことは自分ですといった基本的な生活習慣の重要性を、1年生なりに理解させることができると思われる。

4. 本時の指導

(1) 研究主題との関わり

①本時の位置づけ (道徳的実践活動の活動計画より)

	道徳的実践活動のねらい	第1段階 道徳的価値への 気づき	第2段階 活動・体験	第3段階 道徳性の高まり
5 ・ 6 月	振り返りカードの活用の仕方を理解させ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【学級活動】 「基本的な生活習慣」 学校生活の基本的な決まりについて理解させ、気持ちよく学校生活を送ろうとする態度を育てる。	【短学活(家庭)】 振り返り活動・1 振り返りカードの活用の仕方を理解させ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【道徳の時間】 1 - (1)節度・節制、自立 「かぼちゃのつる」 人の忠告をよく聞いて、わがままをしないで規則正しい生活をしようとする心情を育てる。
7 ・ 8 月	学校や家庭での生活について関心をもたせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【道徳の時間】 1 - (1)節度・節制、自立 「おもちゃのかいぎ」 身の回りの物を大切に使う態度を育てる。	【生活科(家庭)】 「なつやすみだいすき」 夏休み中も振り返りカードを使って自分で自分の生活をつくり、元気に過ごすことができる。	【学級活動】 「夏休みを振り返って」 夏休み中の生活を振り返らせ、基本的な生活習慣を持続する意欲を支援する。
10 ～ 12 月	生活習慣の改善に向けたこれまでの活動を振り返り、より望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【道徳の時間】 1 - (1)節度・節制、自立 「しまのおさるたち」 他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さに気づき、自立する態度を育てる。 本時	【短学活(家庭)】 振り返り活動・2 2学期の生活について関心をもたせ、新しいめあてを立てて基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【短学活】 振り返り活動の結果から、望ましい生活習慣を持続する意欲を支援する。
			【短学活(家庭)】 振り返り活動・3 生活習慣の改善に向けたこれまでの活動を振り返って新しいめあてを立て、より望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【短学活】 振り返り活動の結果から、より望ましい生活習慣を持続する意欲を支援する。

同時

		【生活科】 「みんなだいすき」 家庭での生活をより楽しくするために、自分でできることを考える。	【生活科】 「みんなだいすき」 家庭での生活をより楽しくするために、自分でできることに継続して取り組むことができる。	【学級活動】 「冬休みにむけて」 冬休み中も自分でできることを継続して取り組み、より望ましい生活習慣を身につけることができるように支援をする。
1 ・ 2 月	冬休み後の学校や家庭での生活について関心をもたせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【学級活動】 「冬休みを振り返って」 冬休み中の家庭での生活について振り返らせ、基本的な生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【短学活(家庭)】 振り返り活動・4 3学期の生活について関心をもたせ、新しいめあてを立ててより望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育てる。	【短学活】 振り返り活動の結果から、より望ましい生活習慣を継続する意欲を支援する。

②指導の手立て

本時は、第1段階「道徳的価値への気付き」にあたる。

本時まで、児童は「ふりかえりカード」に3回取り組んできた。

5月の「ふりかえりカード1」では、カードの活用の仕方を理解させながら、「家の人に朝の挨拶をしよう」という共通のめあてで基本的な生活習慣を身につけるように取り組ませた。そして、道徳の時間に「かぼちゃのつる」を学習し、わがままをしないで生活しようとする心情を育ててきた。

7月には、道徳の時間に「おもちゃのかいぎ」を学習して身の回りの物を大切に使うことのように気づかせた。そして、生活科「なつやすみだいすき」とも関連させて、夏休み中も「なつやすみふりかえりカード」を使って自分の生活をつくり、元気に過ごすことができるように取り組ませた。

8月の「ふりかえりカード2」では、夏休みによくできなかった項目をめあてにして取り組ませた。10日間の取り組み期間中のめあての結果は、下の通りである。

- ・ 7～10日間できた児童・・・65.4%
- ・ 4～6日間できた児童・・・15.4%
- ・ 1～3日間できた児童・・・11.5%
- ・ 1日もできなかった児童・・・7.7%

夏休みよりは守れるようになった児童がいた反面、依然として改善の見られない児童が19.2%いて、個人差が大きくなった。

以上のように、これまでの取り組みでは個人差が大きくなったが、お家の人に言われてからやってもできたことにしたので、全体的にはできることが増えた児童が多かった。

本時では、「道徳的実践プログラム」の第1段階として、自分でできることは自分でやることの大切さに気づかせたいと考えた。展開段階では、さるたちの困っている様子やそのときの気持ちを理解し、自分でしなければならないことがあることに気づかせるために、お面をつけて役割演技をさせたい。【役割演技】終末段階では、自分のことを自分ですることの大切さについての話を聞かせ、価値について深めさせたいと考える。

35分	(4) さるたちに言ってあげた いことは何か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べ物を取ることができてよ かったね。 ・ 食べ物のとり方を練習すると いいよ。 ・ 自分でやったほうがいいよ。 	
終 末 5 分	3 自分のことを自分ですることの大切さについて話を聞かせる。		・ 価値を印象づける資料を用意する。

しまのおさるたち

だいきちぎる

・ちからがつよい。

・やさしい。

・しんせつ。

さるたち

・なにもしない。

・だいきちぎるに、

なんでもとってもらう。

だいきちぎるがでかけたとき

・だいいじょうぶ。

・しんぱいしないよ。

・すぐにかえってくるよ。

たべものがなくなったとき

・おなかがすいた。

・こまったな。

・はやくかえってきて。

絵

・れんしゅうすればよかった。

・たべものをとってみよう。

・むりだよ。

・きにのぼってみよう。

やってみよう

じぶんのちからで

5 資料分析 資料名「しまのおさるたち」（みんなのどうとく1年 学研）

《主要場面》	《登場人物の意識》	《児童の意識》	《意識の焦点化》	《主な発問》
<p>島のさるたちはだいきちぎるに頼んで食べ物をとってもらい、自分たちは何もしなかった。</p>	<p>○だいきちぎるは優しいな。 ●食べ物をとってもらえるから楽だなあ。 ●いつも遊んでいられていいなあ。</p>	<p>・だいきちぎるは優しくて親切だ。 ・だいきちぎるがいるからさるたちは何もしなくていいんだ。</p>	<p>だいきちぎるに頼り切っているさるたちの気持ちに共感させる。</p>	<p>(1) さるたちが何もしなくても困らなかったのはどうしてか。</p>
<p>だいきちぎるは、留守の間の食べ物をどっさりとおいて出かけていった。</p>	<p>●食べ物がたくさんあるから大丈夫。 ●行ってらっしゃい、心配ないからね。 ●すぐ帰ってくるだろう。</p>	<p>・だいきちぎるがいなくても、食べ物がどっさりあるから大丈夫。 ・本当に大丈夫かな。</p>	<p>だいきちぎるが出かけても、さるたちには少しも不安がないことに気づかせる。</p>	<p>(2) だいきちぎるが出かけたとき、さるたちはどんなことを思ったか。</p>
<p>大嵐でだいきちぎるが帰れなくなり、さるたちは食べ物がなくなって困ってしまいました。どうしたらいいかわからず、うろろ歩き回っていた。</p>	<p>●困ったなあ、おなかがすいた。 ●誰か助けてくれないかな。 ●だいきちぎる、早く帰ってきて。 ○だいきちぎるに頼りすぎていた。 ○食べ物をとる練習をしておけばよかった。 ○どうにかして食べ物をとってみよう。 ○自分でできることは自分でしよう。</p>	<p>・食べ物がなくなって、困ったな。 ・だいきちぎるに早く帰ってきてほしい。 ・だいきちぎるがいなくてもできることはないかな。 ・自分たちで食べ物をとってみたらいい。 ・自分でできることは自分でしなければ。</p>	<p>困っているさるたちの様子や気持ちをとらえさせ、その原因が自分たちにあることに気づかせる。</p>	<p>(3) 食べ物がなくなったとき、さるたちはどんなことを思ったか。そして、どうしたか。</p>